

UMIN 35 周年のお祝いと更なる将来への期待

北海道大学大学院医学研究院
医学教育・国際交流推進センター教授

高橋 誠

UMIN が 35 周年を迎えられたとのこと、おめでとうございます。

私は、平成 21 年 (2009 年) に EPOC 運営委員会委員を拝命し、以来 15 年間にわたって、木内貴弘先生をはじめ UMIN の皆様と共に EPOC の開発と運用を行ってきました。このたび 35 周年の記念に寄稿する機会をいただきましたので、ここ 15 年間の EPOC の変遷を書かせていただこうと思います。

EPOC (Evaluation system of postgraduate clinical training、オンライン卒業臨床研修評価システム) は、平成 16 年度 (2004 年度) に開始された“新”医師臨床研修制度において、臨床研修医の評価を記録するツールとして、EPOC 運営委員会と UMIN が共同開発したシステムです。インターネット閲覧ソフト (ブラウザ) で動作し、インターネットに接続された端末があれば、EPOC 利用者として登録された UMIN ID を用いて、いつでもどこからでもアクセスして評価を登録・閲覧できる画期的なシステムで、運用開始当初は全国の約 7 割の研修医に利用されていました。

当時、私は東京医科歯科大学 (現東京科学大学) や関連病院で整形外科指導医として研修医を指導する立場にあり、選択科研修で整形外科を選択した 2 年目研修医の評価を記録するため EPOC を利用していましたが、周辺からは、入力が面倒、自分の科と関係ない項目がある、入力する意味が分からないなど、不満や疑問の声も聞こえていました。私が平成 21 年 (2009 年) に医学教育に転身した頃には、EPOC 利用研修医数が 6 割を割り込む状況となっていました。評価項目が多数あることが、研修医や指導医の入力操作が煩雑となる原因の 1 つでしたが、評価項目は法令に準拠して変えることができないことから、せめて評価済みの項目を再入力しなくても済むように、目標を達成した評価項目は入力画面から除外できるようにし、さらに、各研修施設のプログラム管理部門が研修医を診療科や指導医に割り当てる事務作業量の多さが、EPOC 導入の障壁になっていたことから、時系列にしたがった研修記録機能を省き、「臨床研修の到達目標」の達成度管理に特化した簡易型 EPOC を開発し、平成 23 年度 (2011 年度) より Minimum EPOC (ミニマムエポック) として供用しました。新規利用とそれまでのフルスペックの Standard EPOC (スタンダードエポック) からの乗り換えで、全国の 60 を超える施設で Minimum EPOC が利用されるようになり、利用研修医数の減少に歯止めがかかりました。

医師臨床研修制度は平成 16 年度 (2004 年度) に必修化された後、5 年毎に見直しがされており、EPOC もそれに対応するよう改修が行われました。平成 22 年度 (2010 年度) の研修プログラムの弾力化 (7 科必修から 3 科必修+2 科選択必修へ) では、救急当番など研

修期間の重複への対応を行いました。平成 27 年度（2015 年度）は大きな制度変更はありませんでしたが、令和 2 年度（2020 年度）に臨床研修の到達目標、方略及び評価が大幅に見直されることとなり、平成 29 年（2017 年）に EPOC 運営委員会内に新 EPOC 開発ワーキンググループが立ち上がりました。当時はまだ珍しかったオンライン会議を導入することにし、当時 UMIN が提供していた国立大学病院インターネット会議システム UMICS（FreshVoice）を活用して、全国各地に所在する委員が議論を重ねました。システムの主要要件として、1）簡便性（簡便な登録/閲覧/利用が可能）、2）真正性（登録者/登録日時の記録、経験症例と診療録の紐付けが可能）、3）動機付け（研修履歴の管理、専門医申請への活用が可能）、4）機密性（患者個人情報を要求しない、アクセス権限の適切な制限が可能）、5）一貫性（卒前教育・生涯教育の評価/履歴管理に拡張が可能）を定め、UMIN と共に 1 年半という短期間で EPOC2（現在の PG-EPOC）の試用版を開発することができました。EPOC2 は、令和 2 年度（2020 年度）の医師臨床研修制度の見直しに対応するとともに、ポートフォリオ機能を搭載し、卒前・卒後のシームレスな臨床教育での活用を企図していたことから、頭字語では旧 EPOC と同じですが、スペルアウトすると e-Portfolio of clinical training、日本語ではオンライン臨床教育評価システムと名称を変えました。令和 2 年度（2020 年度）に医師臨床研修制度の見直しに合わせて供用を開始した EPOC2 は、全国の 9 割以上の研修医が利用する研修評価ツールのスタンダードとなっています。

令和 3 年度（2021 年度）には、EPOC2 を卒前の臨床実習で利用できるよう、医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠してチューンナップした CC-EPOC（Clinical clerkship EPOC、卒前臨床実習生用 EPOC）の供用を開始しました。また、CC-EPOC の普及に伴い、令和 4 年度（2023 年度）に EPOC2 を PG-EPOC（EPOC for Postgraduates、卒後臨床研修医用 EPOC）へ名称変更し、現在に至っています。

CC-EPOC/PG-EPOC は、臨床現場での医師養成を卒前・卒後を通してシームレスに実施するための基盤となる重要なシステムとして現在稼働中です。これらのシステム開発・運用は UMIN がなければ成し得なかったものであり、改めて深謝いたします。また、さらに専門医教育、生涯教育に資する EPOC システムの開発が今後計画されています。EPOC システムの開発・維持・運営を通じて、本邦の医学教育の発展に UMIN が今後さらに貢献されることを期待しています。